

新しい社会的リスクとソーシャル・ガバナンス
— 社会変動と新しいアクター連関の観点から —

濱西 栄司

(ノートルダム清心女子大学文学部専任講師)

渡邊 太

(大阪大学大学院人間科学研究科招へい研究員)

柴田 悠

(日本学術振興会特別研究員-PD)

2011年9月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科
Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

アブストラクト

本報告書では、まず1章では計量的な歴史分析を通して、各国の福祉レジーム形成に11世紀にまでさかのぼる宗教的要因が強い影響を与えていることを明らかにし、2章では日本の再分配政策が高齢者中心であること、またその政策が包括的なものから次第に限定されたものへと展開してきたことを示した。このような現在に至る構造・制度的な背景を検討した上で、3章では、改めて新しい社会的リスクと日本型ソーシャル・ガバナンスの観点から、社会の再構築を目指すアクターの動きを追い、4章では、若者の非正規化・不安定化を背景として、日韓における若手研究者とそのネットワークのありようを考察している。

キーワード：福祉国家レジーム、新しい社会的リスク、社会運動、コミュニケーション

2010年度次世代研究「ソーシャル・ガバナンスと国際比較」(研究代表：濱西栄司)による成果である。

【メンバー】()内は2010年度プロジェクト時点

濱西 栄司 (京都大学文学部非常勤講師)

樋口 拓朗

渡 邊 太 (大阪大学大学院人間科学研究科助教)

柴 田 悠 (京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程)